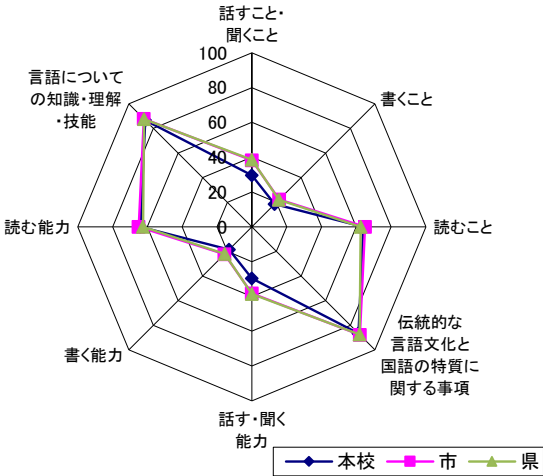


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	29.6	38.3	38.5
	書くこと	18.5	22.3	21.9
	読むこと	64.0	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	86.6	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	29.6	38.3	38.5
	書く能力	18.5	22.3	21.9
	読む能力	64.0	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	86.6	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○話し合いは、考えの共通点や相違点を整理しながら聞くという聞き方が大切だという理解はできている。 ●話全体の総合的な読解力が落ち込んでいるため、司会者として話の内容を理解し、進行するための読み取りの力に課題がある。	・授業中に話し合い活動を増やしたり、順番に司会をやったりするなどし、全員が実際に司会の体験ができるようにする。その中で、話の流れを理解し、進行していく力をつける。今まで話し合いに積極的に参加していなかった児童も、順番にやることで話の内容を意識して聞けるようにする。 ・パターン化された読解問題だけでなく、総合的な読解力をつけるために、読書の時間を確保し読むことへの抵抗感をなくす。また、質問の内容を的確に読み取れるように線を引かせたり、繰り返し出てくるなど大切な言葉を意識させる指導をしていく。
書くこと	平均正答率は他の領域と比べて低い。 ●「文章構成を意識し、内容を工夫してリーフレットを作る」の問いは、選択式にも関わらず、正答率が37.9%とかなり低い。2つの資料を比べて読み取る力に課題がある。 ●記述式の問題にはかなり抵抗を感じるようで、23.4%の無回答があった。 ●話すこと・聞くことの領域と関連し、意見をまとめるという力に課題がある。	・自分の考えたことがあっているという確証を得られないと答えを書くことができないという児童が何名かいた。自分の考えに自信をもち、書くことへの抵抗感をなくすために、普段から授業や宿題で、意見や感想を書く活動を取り入れていく。 ・社会や総合でも、国語の書くことを意識した指導をしていく。友達の意見や資料から読み取ったことをまとめることに慣れさせるために、まとめ方のパターンを提示し指導していく。
読むこと	平均正答率は、県の平均と比べてやや高い。 ○文学作品の内容理解は、県の平均とほぼ同じであった。 ●説明文の内容の理解は記述式の活用問題ができていない。「35字以内で書きましょう。」という問題に慣れていないことが課題と考えられる。	・多様な形式の問題を解く機会をつくり、問題文を的確に読み取る指導をする。 ・文章の要点や細かい点に注意して読み取ることができるよう、日頃から言葉の意味を調べたり、キーワードとなる言葉の見つけ方などを練習したりする。 ・複数の資料から、共通点を見つかったり必要なものを選んだりする単元をていねいに扱うことで、資料を読み取る力を養う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、県の平均とほぼ同じ。 ○「漢字の読み書き」「接続語」は9割以上の正答率があり、良くできていた。 ○昨年度は「国語辞典の使い方」が課題になっていたが、「漢字辞典の使い方」は、8割近くができており、改善が見られる。 ●「修飾と被修飾との関係」は、県や市の平均よりかなり低い。	・修飾語については、朝の学習や宿題で繰り返し学習していく。 ・新出漢字の学習の際には、熟語の読み、音訓読みにも幅広く触れさせるようにする。また、読書活動を引き続き推進し、活字に慣れさせる。 ・慣用句は、今回のテストは選択問題なのでできたが、短答式だとできない可能性が高い。ワークテストにも出題されるが、慣用句に触れる機会が少ないので、習得させていく。